

山中温泉

山中温泉は、加賀の山に位置する、1,300 年の歴史をもつ温泉村だ。この街の温泉と山の風景が、唄と踊り、芸者の芸や手作りの漆器といった豊かな文化を育んだ。

この街は、中央広場にある「菊の湯」という、男女ごとに分かれた共同浴場を中心としている。公共浴場の外には足湯と、飲める湧き水があり、どちらも無料だ。この地にある数多くの旅館では、日本式の宿泊施設や郷土料理を提供している。

1800 年代には、日本海沿いで貿易を行っていた木造りの北前船の船長と船乗りたちが、冬の間しばしばこの街を訪れていた。彼らが唄っていた舟唄に影響を受け、山中節が生まれた。街の中央広場にある山中座では、土日・祝日に芸妓による山中節が演じられる。平日の山中座では、より親しみやすい山中節の舞台を主催する。この上演では、訪問者たちは芸妓と伝統的なゲームを楽しむことができる。

山中漆器は、この街特有の漆器だ。漆器の制作工程の各段階は、異なる職人によって担当される。山中は熟達した木地挽物で最も有名である。地元で作られた作品は、この街の大通り「ゆげ街道」に並ぶ、多くの歴史的な店舗にある。いくつかの店舗では、訪問者たちに旋盤で碗や他のアイテムを回す体験をさせてくれる。街の中心の 1km 北には、山中うるし座がある。このうるし座には、山中漆器の店とギャラリー、展示館がある。そして、隣接する研修所では、ろくろ挽きの実演が行われる。

あやとり遊びを意味する「あやとりはし」は、あやとりのようなかたちで鶴仙溪にかかっている。この橋は、前衛的な映像作家であった勅使河原宏（1927–2001）によって設計された。暗くなると、橋はライトアップされ、下方の渓谷をドラマチックに演出する。街の反対側の橋の脇には、1.3km の遊歩道が森を抜け、川と並行に伸びている。